

(株)クラフト
代表取締役社長

PICK UP

THE PERSON

田辺 徹

KEY WORD

対話

— taiwa —



●対談記事は 1 頁に掲載

いつでもどこでも、クリック一つでほとんどの物が買える時代。欲しい物を手に入れる際に、人と会話する必要も、外に出る必要もない。そんなデジタルの時代だからこそ、敢えてアナログを大事したいという田辺社長。仕事ではネットでのやり取りではなく、対話のある電話を使う。そして顔の見えない対話で埋められない隙間は、自ら足を運んで埋めに行く。そこから生まれる安心感や信頼関係は、クリックからは得られないものだ。「確かにネットは便利ですが、やっぱりアナログに勝るものはありません」——。どんなに時代が変わろうとも、社長の思いはこれからも揺らぐことはない。

「何でもクリック一つで買える時代。
だからこそアナログの対話を大事にしたい」



株式会社 クラフト

神奈川県横浜市港北区新横浜 2-17-19
HF 新横浜ビルディング 7F
URL : <http://www.craftweb.jp>



代表取締役社長

東京都中野区出身。大学卒業後、大手電機メーカーに就職した。営業マンとして現場一線で活躍した後、グループ会社の代表に就任する。その中で2016年に『クラフト』を設立。その後、勤めを辞めて自ら資本を出して事業を引き継いだ。

最先端カーエレクトロニクス商品を、アナログな温かみある対応で提案

カーナビゲーションなどの最先端カーエレクトロニクス商品販売に携わる企業をサポートすべく、2016年に設立された『クラフト』。立ち上げ間もないながらも、田辺社長の豊富な知識や誠実な対応によって、急成長を続けている。本日は俳優の志垣太郎氏が訪問。社長にインタビューを行った。

田辺徹

対談

志垣太郎
俳優

時代の変化に鑑みて ニーズを見直し独立

まずは、田辺社長の歩みからお聞かせ下さい。

大学卒業後、大手電機メーカーに就職しました。当時はレーザーディスクやカーステレオのコンボなどを手掛けていて、飛ぶ鳥を落とす勢いで成長していた企業だったので、採用が決まった時は嬉しかったですね。ここでは30年以上勤務しました。ずっと営業畑を歩んできて、途中で系列会社の代表に抜擢されたんです。そしてカーAV機器やナビを販売する責任者という立場で仕事をしようになりました。カーナビも昔は30〜40万円ぐらいだったので、ドライバーにとっては憧れの商品だったんです。車の専門店や量販店で購入して取り付けてもらうことが当たり前でしたが、段々と価格も下がって広く浸透していく中、状況は変わっていききました。それまでは買ってから取り付ける商品だったのが、車を購入する段階で自動車販売会社のほうで取り付けたり、そもそも標準装備されていたりするようになったんですね。

— そうですね、一時期は車のCMでも「ナビ付き」と言っていましたね。
ええ。そうした時代の流れに伴って、自

かったとか、修理をどこに頼めばいいかわからないといった問題も生じ兼ねない。当社なら相談に乗って間違いない商品を提案しますし、もし勘違いで別の商品を頼まれたり、修理が必要になったりしても、電話一本で注文も修理も返品もご対応できます。
なるほど。ネットは一見便利なようで、不便なところもあるのですね。

はい。昔からの買い方をしたい人も多いですしね。また、最初は当社の営業マンが対応しても、契約後は日を改めて、私が直接伺うようにしているんです。全国どこにでも出掛けますし、顔を合わせることで信頼も生まれます。どんな時代になっても、やっぱりアナログが一番だと思いますね。

— お話も尽きませんが、最後にこれからの展望をお聞かせ下さい。

少子化や車離れなどで、車関連の事業は飽和状態と言われています。でもそれは日本国内の話で、世界に目を向ければまだまだ伸びる分野だと思います。広い視野を持って、今後も自動車産業に携わっていることに誇りを持ちながら、さらに大きな事業に育てていきたいですね。

check Point

社会への貢献度を 目に見えるかたちに

▼前職では公益財団法人『日本生産性本部』で、企業を審査する「日本経営品質賞」を長く学んできた経験があるという田辺社長。その中で経営について様々なことを学んだそうで、それが今に活かしているという。「日本人というのは、儲ければ何をやっても良いと思っている人がほとんどいない」と社長。仕事を通じて地域や社会に貢献したいと思っている人が大多数で、それが実感できることがモチベーションにつながっているのだという。社長自身が経営者になった今は、従業員にその実感が得られる環境を用意することが目標だ。自分たちが携わっている仕事が、少しでも社会に役立っていることが目に見えるようにすること。そして、誇りを持って働けるようにすることを大切にしたいと語る。さらにその中で株主、従業員、顧客にいかにか利益を還元していくかを考えたいと社長。「ここ横浜、神奈川、そして日本という大きな括りの中のステークホルダーに対して、真摯な気持ちで仕事をしたい」と、事業への思いを熱く述べてくれた。

志垣太郎 (俳優)

guest comment

「田辺社長は、作家の司馬遼太郎さんが好んで使っておられた『名こそ惜しけれ』という言葉がお好きだそうです。これは武士道の精神を表す言葉で、『恥ずかしいことはするな』という教え。社長のお話を伺っていて、今の仕事に誇りを持っていらっしゃることや、アナログな方針に自信を持っている点など、ご自身の名に恥じない経営を貫いておられると感じました」

